



朝陽に輝く霧の湖・十和田湖

# 写真家 和田光弘

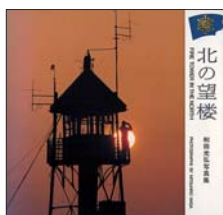
写真に興味を持ったきっかけは、小学校六年生の時、学校の先生の家に遊びに行った時に初めて目にした『写真の引き伸ばし』作業でした。機械の形やそこにセットしたフィルムから投影される画像を引き伸ばすとそれまで見えなかった細かい部分まで浮き出てくる不思議な世界に深い感動を抱き、写真に興味を持ったからだとそうです。中学では写真部に入部。そこで、現在も写真家として活躍中の国分光明氏と出会い、大きな影響を受けたことが写真の世界に足を踏み入れたきっかけになりました。

昭和四十年三月、十和田市の中心街でガス爆発が起き、数名の方が死傷するという事故がありました。当時十八歳の和田青年はカメラを手に現場へ駆けつけ、夢中でシャッターを切りました。そのスクープ写真を毎日新聞社に投稿したところ、見事全国版に掲載され、読者写真コンクールでは二位に入賞。写真家和田光弘の誕生となりました。

こうして、どんどん写真の世界にのめり込んでいった和田青年は、現在講師を務める日大芸術学部写真学科に進学。そこで写真好きの仲間達とともに、無我夢中で勉強する中で、徐々に写真家としての方向性を見出していきました。『理論も重要だがやはり技術だ。よし！俺は写真の技術でトップになつてやるぞ！』

大学の卒業では、下北半島へ三年間通いつめ、撮り溜めた画像の集大成を『下北半島の漁民の生活』として出展しました。惜しくも入賞は逃したものの、却って写真家魂に火をつけることになり、一念発起。新宿

## 和田さんの主な出版物



写真集  
北の望楼  
平成4年3月出版



写真集  
駒街道  
平成7年10月出版



はがき  
十和田の四季  
平成18年7月製作



2008年  
十和田市観光カレンダー  
平成19年10月製作



日本の道百選 駒街道



写真集「北の望楼」より 朝日

また、和田さんは、個性派俳優の菅原文太さん付きのカメラマンとして、日常のスタイル写真を撮る仕事をしていた時代もありました。その後、ファインダーを通して俳優の手柄を見抜き、その人の個性と魅力を画面に引き出す才能が認められ、ついには東映のポスター担当のカメラマンとなり、異例の七年間という長期間に渡り、吉永小百合さん・小林旭さんなどの大スターのポスター撮影を担当していました。

ポスターの仕事が一段落すると、今度は、全天空の依頼で、「世界のまちかど」というテーマで写真を撮るため世界行脚。同時に、コニカ（サクラカラー）のカレンダー製作に十年携わります。

その間も、数々の賞を受賞され、多忙な日が続いていたある日のこと、十和田市の当時の消防署長からこんな依頼を受けました。

『消防署の火の見櫓（やぐら）を解体するから是非その過程をカメラに納めて欲しい！』

快く引き受けた和田さんは『ならば、いっそ

のギャラリーにて初の個展を開催したところ、絶大な好評評価を得たのでした。大学卒業後は、同大学芸術研究所に入り、写真技術の研究を続け、同大学助手を務める傍らで、朝日新聞東北版に「オトエッセイ」「下北」連載や、都心ギャラリーでの個展開催等、多くの



## 和田光弘 (わだ みつひろ) さん

### ▼プロフィール

日本写真家協会会員 日本写真芸術学会会員  
新写真派協会常任委員

- 昭和22年 青森県十和田市に生まれる
- 昭和45年 日本大学芸術学部写真学科卒業  
同時に日本大学芸術研究所(現大学院)に入る  
現在日本大学芸術学部写真科講師  
並びに女子美術大学短期大学講師
- 昭和40年 毎日新聞全国読者写真コンクールB賞入選
- 昭和41年 毎日新聞全国読者写真コンクールA賞入選
- 昭和46年 国際写真サロン入選(51年まで6年連続8点入選)
- 昭和51年 写真展「青森 夏 ラッセラー」(青森市 十和田市)
- 昭和58年 写真展「ねぶた」(青森市)
- 平成4年 写真展「北の望楼」(十和田市)
- 平成7年 写真展「地球のえくぼ」(東京新宿コニカギャラリー)
- 平成8年 十和田市の四季カレンダー制作
- 平成12年 ~19年 青森県の四季カレンダー制作
- 平成12年 写真展「ザ レイク 十和田」(東京銀座ギャラリーローヤル)
- 平成14年 写真展「七戸の四季」(蔵山宇一記念美術館)
- 平成15年 写真展「馬と話そう」(十和田市称徳館)

- 写真集
- 昭和58年 「ねぶた」講談社
- 昭和63年 「海峡のフィナーレ」日本交通文化協会
- 平成4年 「北の望楼」青森県十和田地区事務組合消防庁会落成記念祝賀会実行委員会
- 平成7年 「駒街道」十和田市
- 平成16年 「駒の里」十和田市市制施行50周年記念

のご写真集にしよう!」と、消防署の実行委員会を作り、写真集を出版しました。それが一九九二年和田光弘写真集「北の望楼」です。この写真集は大きな反響を呼び、和田さんの代表作の一つとなりました。

これが和田さんのターニングポイントとなったでしょう。それから、十和田市四十年記念企画駒街道の写真集、カレンダー、県内各市町村の写真など県内を撮ることが多くなりました。

来年の青森県の観光カレンダーも和田さんの写真で構成されています。ぜひ見たいものです。

ご存知の方も多い和田さんのカレンダー。十和田湖や奥入瀬の写真も数多くあります。では、十和田湖の魅力はいかなるものなのでしょう。なにがそこまで、和田さんの写真家魂を刺激するのでしょうか?と聞いたところ、

「十和田湖はねえ、ひたすら待つと素晴らしい瞬間に出会えるんだよ。何ものにも代えられない感動を得ることが出来るんだよ。」

レンズの向こうの世界は自分だけの世界。

カメラを通して見える十和田市は、和田さんにとっても大好きな街だということが、お話の端々で伝わってきました。

十和田市についても、私たちにこのようにお話してくださいました。

『せっかくながら自然や、整備された官庁街など、いいものがたくさんあるのだから、映像でも口コミでも、もっともっと宣伝すべき。来春に開館する十和田市現代美術館も地元の人たちが活躍し、企画し、盛り上げてもらいたい。それが十和田市の発展につながる。商店街の発展にもつながるのだから。』

四季のはっきりしている十和田市だからこそ、官庁街の美しさを多くの写真に残し、多くの人の目に残してもらいたい...とお考えなのです。きつと。

関東と十和田を行き来するお忙しい和田さん、今回のインタビューもとても短い時間でしたが、丁寧に優しく答えていただき、今回のちよこつとの見聞きペーシの画像まで撮影してくださいました。和田さんどうもありがとうございました。